



若き木工界のホープ、塩澤兄弟

最新の木工機械を駆使して、伝統の技と美にチャレンジ (有)塩澤工芸にこれからの木工業の在り方を観た

ここ二年間での木工機械設備投資額は約四五〇万円。木製品の加工製造を一から十まで自分達の手で行ない、仕事を頑張った分の言わば褒美として最新の木工マシンツールを手に入れている。毎年の多額の機械償却費は税金対策としての役割をも持っているように、ともあれ昨年の売上げ額は約九〇〇万円にのぼる。これが兄、塩澤正信氏(三一歳)並びに弟、塩澤勝重氏(二八歳)の二人三脚での成果である。「たまたま木工の仕事が好きだったから」と、若い(有)塩澤工芸(長野県飯田市鼎切石五一〇三ノ二一、☎〇二六五―五三一四一五三)代表取締役の正信氏はボソツと語る。

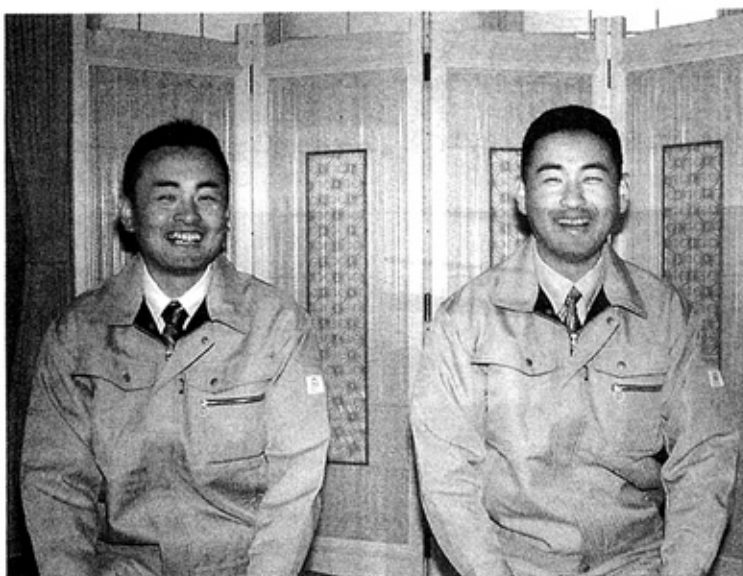
塩澤正信社長は平成一三年の全国建具大会に初めて組子による夏障子を出品して見事最年少で「内閣総理大臣賞」獲得した。当時、若干二七歳とはいえ、いやはや、



▲若い技能者二人で、見た目小さくても大きな仕事ができる(有)塩澤工芸

その実力は並大抵ではなく、現在は弟の勝重氏とともに自慢の腕と最新木工機械を駆使して付加価値の高いあらゆる木材加工仕事にチャレンジして頑張っている。

奇しくも記者が塩澤工芸を訪ねた平成一六年一二月二日は、同社が満一歳の誕生日(会社法人登記)を迎えた記念すべき日であった。誕生日プレゼントよろしく、



▲(有)塩澤工芸代表取締役の塩澤正信氏(右)と取締役の塩澤勝重氏(左)。とても仲の良い兄弟だ

その日、同社の事業所に二台目となる日高機械製の最新型NC全自動組子加工機(ラジアルソー)が設置された。聞けば、日高機械と塩澤社長の出会いは今から一七年

前に遡るといふ。

当時、指物業を営んでいた父親の塩澤信二氏に連れられ、初めて日高機械を訪ねた時、正信氏は中学生であった。子供時代から木で何かしらの物を作るのが大好きで、中学卒業後は迷うこと無く家業を継いだ。家具調度品や建具等を作る指物技術者は仕事柄、木造家屋の建築現場で必然的に建築大工と触れ合うこととなる。

自分の手で自分の家を造りたい……!という衝動にかられた正信氏は、大工の技術を学びたい旨父

夢を諦めるな!

組子夏障子で内閣総理大臣賞に輝く

塩澤正信社長が、大工の父親から独立した訳は、少年の頃見た全国建具展での素晴らしい建具や指物の、まさしく優美な木工工芸品の数々に強い感銘を受け、自らも何かしら評価される様な作品を作って出品したいとの夢があったからだ。たまたま独立開業して間もなく、地元飯田市内の御客から「組子で夏障子をつくりたい」との申し入れがあったそうだ。本来、夏障子は葦等を使って作られるこ

親に申し入れた。すると「それなら一緒に大工をしよう!」と、親子共々大工職へ転向してしまったというのだ。もとより、しつかりとした木工加工技術を修得している故の快挙であるのだろうが、大工親方になった父親の下で一〇年、建築から指物までみっちり加工技術を学んだ。そして二六歳の時、正信氏は少年時代の夢にチャレンジすべく独立を目指し塩澤工芸を創業する。一方、父親はそのまま大工棟梁として若い人達を教導しながら大工を続けているそうだ。

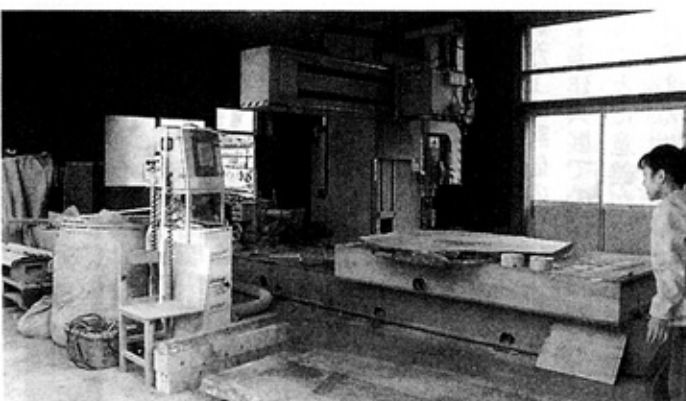
とが多いが、その御客は何故か組子で作りたいたいと言う。

お客との打合わせの時、正信氏は少年時代からの夢をつい語ってしまったところ、客は自分の注文品を建具展へ出品したらどうか?必要コストは面倒見よう……と言うのだ。願ってもない申し出に、早速、正信氏はデザインの構想に取り掛かる。見様見真似で河原に出かけ水のせせらぎや野鳥の飛び交う姿をスケッチする毎日。略満足

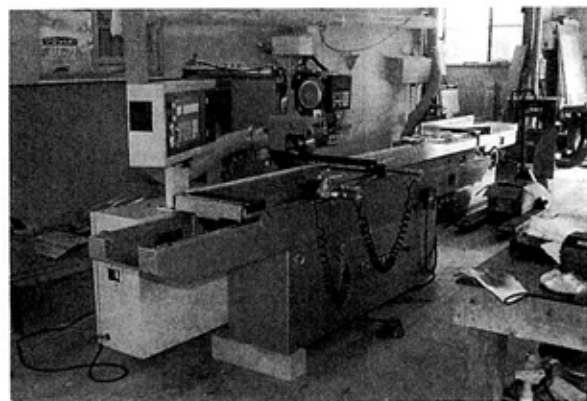


▲作業場には一通りの木工機械がそろえられている

する出来映えのスケッチを抱えて飯田市内の日本画の先生にアドバイスを請いに行くと、今度は日本画の大家を紹介され、石の向きや水の流れ、日本画のセオリーに則り修整を加え、ようやく「これなら……恥ずかしくはない」と言うデザインが完成した。このデザインを木工機械と手作業で細かく繊細な組子障子に仕上げた。この作品は、平成一三年の全国建具展で見事、内閣総理大臣賞を獲得し、最年少での偉業を達成したのだった。これにより、古い伝統の中にも新しい切り口があり、本当に良い



▲あらゆる木工加工に対応すべく導入された日高機械製NC複合加工機



▲新しく導入された日高機械製NC全自動組子加工機

ものには加工技術だけでなく、デザインコンセプトもちゃんと評価されるということが証明された。勿論、確かな技術があつてこそ、作

者の経験不足が人材により補完されたのである。施主、画家、職人、見事なコラボレーションの勝利とも言えよう。

建築も指物も識る

「ウッドインダストリアル・アート・マイスター」
(有)塩澤工芸は木工マルチ加工技術で確固たる存在感を示す

従来の建具屋でもなく、建築大工でもなく、家具屋でもなく、しかし、木工加工屋である。あらゆる木工加工に精通せんとする若き塩澤正信社長を敢えて「ウッドインダストリアル・アート・マイスター」と呼ぶことにした。

思っていたので、自分から頼んで、兄の会社に入れて貰った」と語る。なる程、会社内での意思疎通は100%以上で、素直で実直な好青年の二人を見てみると、これからも大いに延びるだろうとの印象を持った。

会社法人設立登記一周年を迎えた同社は現在、兄の塩澤正信社長と弟の塩澤勝重取締役の二人で現場に対応している。兄と同じ道を歩いてきた弟の勝重氏は「自分も小学校の頃から木で物をつくるのが大好きだった。それで学校の工作とかの成績が良くて、中学を卒業し職業訓練校へ二年通って、それから親父に合流し大工を10年教えて貰った。兄弟で一緒に何かやりたいと思い、また大工は結構沢山いるので、職人の少ない建具・家具等の仕事をやりたいと

二人を少年時代から知っている日高機械の日高明広本部長は、「塩澤工芸のやろうとしていることは単なる建具製造ではない。二人とも建築大工の修業を10年程積んでいて、建築全般の経験がある上での木工総合加工業を展開しようとしている。敢えて、兄弟で力を合わせて新会社も設立した。木を加工している人達は、家まで建てられる感覚で木工をやる。これからはそういうやり方ではないと伸びない」とアドバイスする。一五年前の指物家業時代から、

組子物製作に日高機械製のNCラジアルソーを使っていた。そしてこの度(有)塩澤工芸社設立登記満一歳を記念して最新の全自動組子加工機、要するにNCラジアルソーが導入された。「道具を選ぶのも技術の内。いくらオリンピックの金メダリストでも道具を選ぶ目がなければ金メダル取れない。その時代の最新機械を使いこなすのも技術者なのだ。その時代の道具を使いこなすということ。平成の技術者たるは、明治や昭和の技術者になっても勝負にならない。そして平成の技術者たるは平成の道具を使いこなさないといけない。平

成の木工機械とは、プロ中のプロが使う機械であるが、アルバイトのおじさんやおばさんでも平気で使える機械だ」。同社アドバイザリーとしての日高明広氏の言葉は容赦ない。

塩澤正信社長も負けじと言う。「内閣総理大臣賞は一つの通過点。大工でも腕が良いといわれながら地元でしか評価されない。家具をやるうと思っても家具は全国展がない。やはり、大勢に見ていただいた上で評価の善し悪しが重要だ。全国建具展での作品出展に挑戦することに意義があつて、そこで認められなければ問題外。若いとい

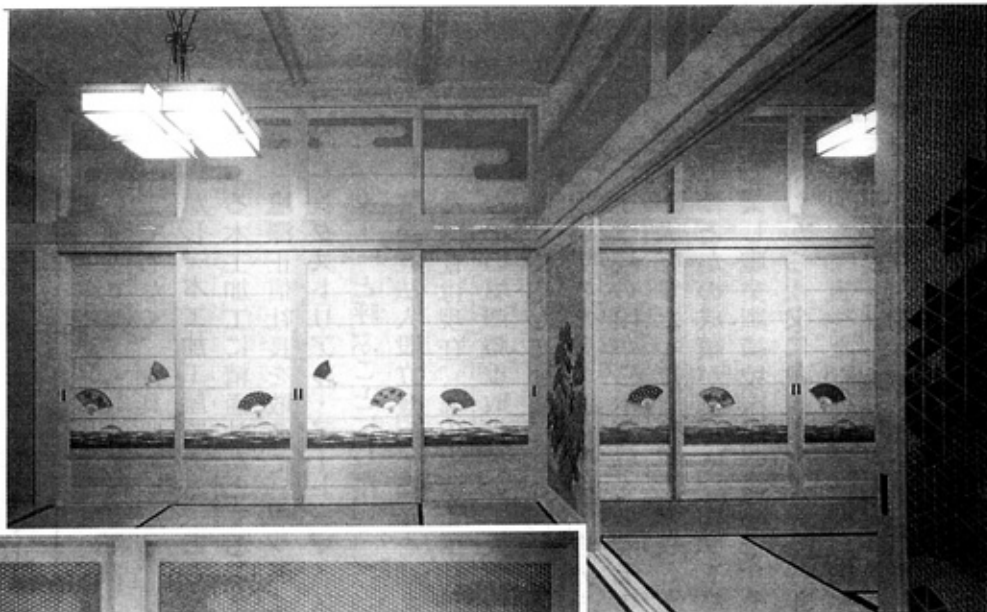
組子に心を吹き込む



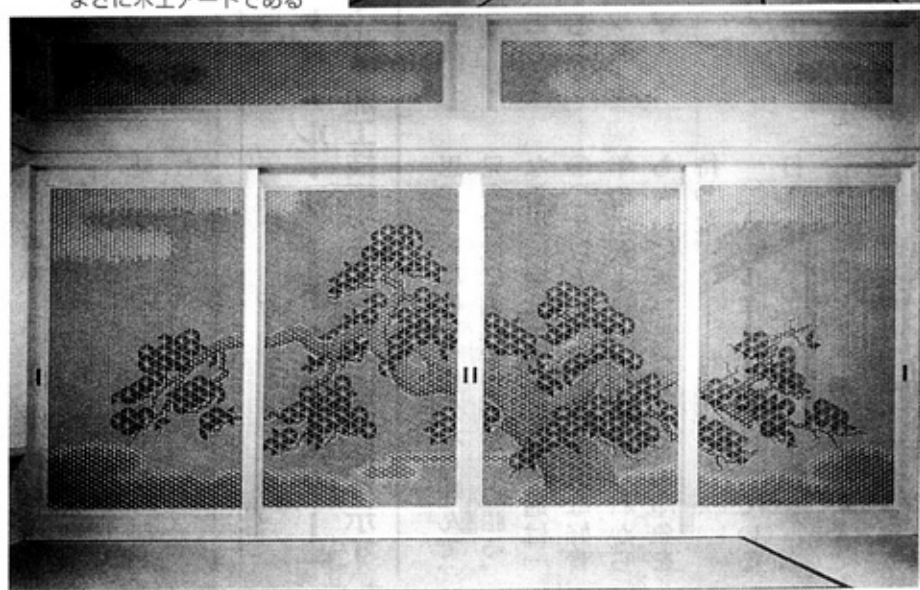
塩澤正信 (伝統工芸木製建具士)

略歴

- 1973年 長野県飯田市に生まれる。建具職人の父の影響を受け、幼少の頃より組子工芸に興味を示す。
- 1988年 15才で衝立を初出品。
- 1991年 (有)井坪工務店入社。大工職の傍ら毎日組子工芸に取り組む。
- 1994年 第29回全国建具展示会に組子襖を出品。中国地方建設局長賞受賞。
- 1999年 塩澤工芸を起し独立。現在に至る。



▼長野県・浄蓮寺の組子障子。
まさに木工アートである



うことが技術者として不利だとしても、チャレンジすることが糧となって次の展示会にも、新しい木工分野の仕事にも意欲が繋がって行くから」と。

ふーむ。若くてもこんな人達がいるのかと日本の木工の将来に向けて少し元気が出て来た。

気を良くして同社の次の目標を

聞いて見ると、「塩澤工芸にあつて、木の加工では出来ないことが何も無いというくらいに充実させたい。勿論、これまで得意として来た組子加工も、もつと世の中の多くの人に知って欲しいと願っている。日本の伝統工芸としての組子物は、とても高価な金額の物だけにではなく、普段着として使っていける様な組子製品を、日本が世界に誇る工芸品として提供して行きたい」と語ってくれた。

その言葉を裏付ける機械が、日高機械製の五軸複合加工機だ。削り、溝突き、穴加工、削り出し、彫刻、柱加工、丸目、棒材加工等、家具、建築、木工加工の守備範囲が広く、五軸の複合ヘッドによる旋回傾斜、主軸の出力、加工ストロークも大きい。これ一台で殆どの家具、建築、彫刻、建具等、木の加工一切が行えるオールラウンドプレイヤーである。四〇〇〇万円はする。一年半前に導入し、社寺仏閣用建築材の加工用途にチャレンジしているそう。塩澤工芸メイの木工加工機である。

同社は今年、付加価値の高い仕事をすするスタートラインに付いたばかりだ…。

日高グループ

社寺仏閣・建築 複合加工機から、在来・金物・ログ用プレカットラインまで… <http://www.hidaka.gr.jp>



日高機械

〒925-0212 石川県羽咋郡志賀町徳田
TEL.0767-37-1311 / FAX.0767-37-1558

株式会社 田辺鉄工所

本社：〒920-0844 石川県全沢市小橋町5番35号
TEL.076-252-0124 / FAX.076-252-0125
工場：〒925-0157 石川県羽咋郡志賀町堤松
TEL.0767-32-3663 / FAX.0767-32-3866

(株)田鶴浜マシンウッド

〒929-2116 石川県七尾市田鶴浜町吉田
TEL.0767-68-6666 / FAX.0767-68-6333